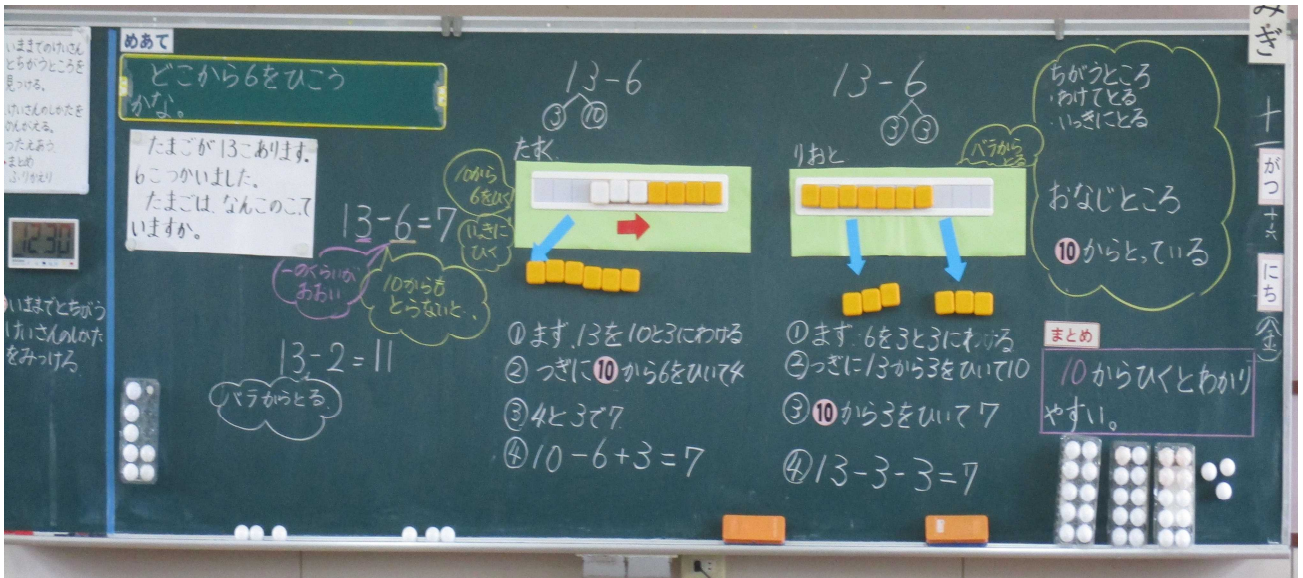


授業者も！参加者も！学ぶ！！高まる！！広げる！！ 西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ

11月16日（金）に、具同小学校において、授業づくり講座の授業研究会が行われました。前回の教材研究会の学びから、前単元の「たしざん」から単元構成を考え、数学的な見方・考え方に着目し、数学的活動の充実を図った「ひきざん」の授業展開を考えました。

減加法と減々法の2つの計算方法を扱うことで、次時以降の計算場面でも、子供たちがどちらの計算方法が有効であるか選択できる力がつくような単元構成にしました。



今回の授業

四万十市立具同小学校 1年「ひきざん」 宮崎 奈苗教諭

具体物（たまごパック）を扱い、子供たちに1学期までに学習した計算方法と今回の計算方法の違いに気付かせる。一の位同士では計算できない、どうすればよいのかという「問い」が生まれる導入であった。

「たしざん」の単元と同様にブロック操作をしながら、減加法と減々法の2つの計算方法があることに気付く、2つの計算方法を比較し、「10のまとまりをくずす」という共通点に着目させることができる授業であった。



齊藤先生からは、以下のような指導（一部抜粋）をしていただきました。

1. 言語活動を支えていくためのポイント

○言語環境の充実

- ・全体で共有できる既習事項の学びの履歴（たしざん）を教室に残す。
- ・子供にとって拠所となるものを掲示する。

○半具体物（ブロック）の操作

- ・全員が被減数の色を揃える。減数の色を変化させるとどこから引いたのかが分かる。

2. 能力ベースの学びとは何か

○問題場面の把握を丁寧に扱う

○具体物（例：たまご）と半具体物（ブロック）、形式（式）のプロセスを可視化する

- ・教師が子供の論理的思考を分かりやすくまとめていく。形式の気付きを言語化していくことが大切である。



3. 明示的指導の具体

○既習と本時の学びの違いに気付く

- ・バラだけでは足りないから今日はパックを開けて、10のまとまりをくずして使う。

○2つの計算方法に気付く

- ・くり下がりのあるひき算は減加法、減々法の2つの計算方法がある。

○対比することで気付く

- ・違い…減加法は最初からパックを開ける方法、減々法はバラから引いて後でパックを開けるなど、パックを開けるタイミングが違う。(10の束をくずすタイミング)
- ・同じ…どちらも10のパックを開けて、10の束をくずす。
- ・くり上がりのあるたし算も2つの計算方法(加数分解・被加数分解)があることも振り返る。

授業者の声

資質・能力ベースの授業づくりを考える良い機会となった。今回の授業をすることで見方・考え方を鍛えるためには、単元デザインを子供の思考に寄り添って計画していかなければならないことを学んだ。子供が考えたいくなるような導入や数学的活動を意識した全体交流など基本的な授業力もまだまだ身に付けていかなければならないと思った。

参観者の声

能力ベースの学びに重きを置いて教材研究ができたことが大変勉強になりました。たし算でも同じような形で単元構成を図り授業を行ったことで、従来の流し方で授業をしていた時には見られなかったような子供たちの成長をみることができました。齊藤先生に教えていただいたことを基にして単元構成や授業づくりができ、資質・能力ベースの授業の大切さを実感することができました。

参観者の声

問題を提示してからめあてにいくまでの流れで、子供がいきなり「問い」を持って本時の課題に取り組んでいくことができるか、必然性のある導入の大切さを感じました。問題からめあての流れをストーリー性を持たせていきたいと思いました。既習を比較することで気づき生まれ、発見したことが学びにつながっていくので、既習と比較することを今後の自らの実践で大切にしていきたいです。

参観者の声

積極的に説明ができていく児童の姿を見て、日頃から活発な言語活動が行われていることが伝わってきました。減加法と減々法を単元の1時間目にするものの価値は、今後の学びの中で気付くものだと思います。また、単元と単元のつながりを意識して、授業を構成していく良さを感じました。私も1年生の担任をしているので、これからもっと教材研究をしていかないと感じました。

参観者の声

1時間の授業の中で2つのやり方を発見する時の児童のわくわく感を大切にしたい授業を仕組んでいくことの意味を学ぶ事ができました。式の数、教師の声かけ、思考のつながりなど改めて考えさせられ、1年生担任になった時に、ぜひこの場面を今回の方法でやってみたいなと思いました。

「1月の学び場」のお知らせ

1月10日(木) 大方中授業研究会 (PM)

1月11日(金) 清水小授業研究会 (PM)